

次の文章を読み、文中の [1] ～ [8] にあてはまる人名やことばを答えなさい。
また、それぞれの間に答えなさい。

日本と中国は、古くから深いつながりがありました。はるか昔から現代にいたるまで、日本の歩みは中国とともにあったといえるでしょう。日本はさまざまな影響を中国から受けています。今から2400年ほど前に日本に伝えられた稲作文化も、中国の長江流域で発達したものがもたれていると考えられています。

日本では、稲作が伝えられると、各地にむらができ、むらは互いに争いをくりひろげながら、小さくなくへと成長していきました。同じころ、中国では、広い大陸を統一し、周辺の国々へも大きな影響力を持つ国家がつくられていました。日本各地の王の中には中国に使いを送り、中国の皇帝に従うことを約束したものもいました。

中国では、6世紀のおわりに隋が、7世紀には隋に代わって唐が統一を果たします。都の長安では人口が100万を超え、中国人だけではなく中央アジアなどから外国人が多く訪れる国際都市となりました。かれらは、遠くはなれた地中海やペルシア(イラン)で作られたさまざまな珍しい品物を中国に持ちこみました。

聖徳太子は、中国の進んだ政治制度や文化を学んで受け入れようと考え、留学生を隋に送りこみました。その後、[1] らは、このときの留学生とともに、①中国の制度を参考にして新しい国づくりに取り組みました。これが、大化の改新です。その後、隋から唐の時代になっても、②遣唐使が派遣され、唐との交流によって日本は大きな影響を受けていきました。平安時代になって、遣唐使は廃止されますが、その後も僧侶や商人の行き来は続きました。

問1 下線部①について、日本から遣唐使や遣唐使が派遣されていた時代に、中国から学んだ制度はどのようなものでしたか、説明しなさい。

問2 下線部②についての説明として、正しいものをア～エから1つ選びなさい。

- ア 唐の鑑真は、たびたびの失敗を乗り越えて、遣唐使船で日本に渡り、京都に唐招提寺を開いて、民衆に新しい仏教を広めた。
イ 遣唐使は、博多から朝鮮まで船で渡ったあと、陸路で長安をめざした。
ウ 日本の天皇がかわるたびに、唐からも皇帝の使節団が派遣され、博多と京都のあいだを行列を組んで往復した。
エ 遣唐使とともに多くの僧や留学生が唐にわたり、唐の仏教、文化、制度などを日本に紹介した。

13世紀にはモンゴル人が中国を征服して、元が成立します。もともと遊牧生活をおこなっていたモンゴル人は、中国だけではなく、ヨーロッパにまで広がる広大な地域を支配する帝国を作り出したのです。元は日本も支配しようとして使いを送って来ましたが、鎌倉幕府の[2] であった北条時宗はこれを拒否しました。そこで元は2度にわたり海を渡って日本に攻めて来ました。しかし、室町幕府を開いた[3] は、京都に天竜寺を建てる資金を稼ぐため、元に貿易船を送りました。商人たちの行き来も盛んに行われていたようです。元と日本のあいだには、そうした平和的交流もあったのです。

元に続いて明が成立します。明はまわりの国々に対して皇帝に従うことを求め、その結果日本は明に従うことにしました。しかし、16世紀には、日本を統一した豊臣秀吉が、

A

この結果、明との関係は悪化しました。

問3 空欄Aにあてはまる内容を文章で答えなさい。

中国でつくられる生糸は、世界的にも評価が高く、16世紀になると、速くヨーロッパから、これを手に入れるために多くの貿易船がやって来ました。江戸幕府ができたころ、日本の商人は中国製の生糸をポルトガル商人から買っていました。徳川家康は大名や商人に、貿易の許可状である **4** を与え、東南アジアなどで貿易をすることを許しました。かれらは現地で中国の貿易船と取り引きをすることも多かったようですが、この間、幕府がめざした明との関係改善は、思うように進みませんでした。その後、キリスト教を禁止して信者を取りしめる目的もあって、貿易船の入港を **5** に限定し、貿易の相手国を、キリスト教を広めない国である **6** と中国に限定し、それ以外の国とは取り引きしない **3**「鎖国」にふみきったのです。

問4 下線部③について、キリスト教の禁止以外に幕府がねらっていたことは何でしたか。

18世紀のおわりころになると、鎖国を続けてきた日本の近海にも、外国船がたびたびあらわれるようになりました。幕府は、外国船への対応に頭をなやませていましたが、1842年に、清がイギリスとの戦争に敗れ、屈辱的な条約を押しつけられたことが知られると、幕府の指導者たちは大きなショックを受けました。

その後、日本の歴史は開国、江戸幕府滅亡、明治維新と進んでいきます。いっぽう清は、欧米諸国につぎつぎと重要な権利を奪われていきました。明治政府はそのような清を見ながら、欧米諸国に対抗して自分たちの独立を守ることや、国民の意識を高め一つにまとめていくことに、必死になっていきました。日本国内には、清など欧米の圧力を受けている東アジア諸国と手を結んで、欧米に対抗するべきだという意見もありました。しかし日本は、東アジア諸国ではなく欧米諸国に接近し、そこから制度や技術を吸収し、欧米諸国のように④海外に植民地を増やしていくという政策をとり、日本の経済発展に中国を利用していきました。

第2次世界大戦が終わってから50年目の1995年8月15日に、日本政府は次のような総理大臣の談話を発表しました(総理大臣談話はわかりやすく書き改めています)。

「先の大戦が終りを告げてから、50年の歳月が流れました。いま、あらためて、あの戦争によって犠牲となられた日本や外国の人々のことを思うとき、深い思いが胸にこみ上げてくるのを感じます。(中略)戦後50年の節目にあたり、私たちが心にきざんでおくべきことは、今までの歴史をふりかえってそこから教訓を学び、未来に向かって、人類社会の平和と繁栄への道を誤らないようにすることです。日本は、遠くない過去の一時期、戦争への道を歩んで国民を重大な危機におとし入れ、⑤植民地支配と侵略によって、多くの国々、特にアジア諸国の人々に対して多くの損害と苦痛を与えました。未来において再び同じような過ちを繰り返さないようにするために、このような歴史の事実をしっかりと受け止め、深く反省するとともに、心からおわびしたいと思います。また、この戦争によってなくなられた、日本と外国のすべての犠牲者の方々に対して、心からのお悔やみを申し上げます。」

問5 下線部④について、第1次世界大戦がはじまったときに、日本の植民地になっていた場所を2つあげなさい。

問6 下線部⑤について、特に日本が中国に対して行ったことについて説明しなさい。

日本の敗戦後、中国では国内で長く対立していた国民党と共産党のあいだで戦争がおこり、1949年に共産党が勝ち、中華人民共和国が建国されました。しかし、日本やアメリカはこれをみとめず、国交（国どうしのつきあい）のない時代が続きましたが、ようやく1972年になって日中は国交を回復しました。その後、中国はそれまでの経済政策を変え、外国の技術や企業の進出を積極的に受け入れるようになりました。経済は急速に成長をはじめ、ここ10年ほど年7パーセント以上の成長を続けています。

日本でも、かつてそのような高度経済成長をした時代がありました。敗戦後、日本はアメリカの援助を受けて経済を立て直すことになり、7 戦争をきっかけによりやく日本経済は成長に向かいました。それから約10年後の1964年、東京でオリンピックが行われました。日本の復興と成長を世界に印象づけたできごとでした。中国も来年、8 でのオリンピックをひかえています。

高度成長時代の日本は、大量に生産して安く売ることによって、輸出を伸ばし、⑥1960年代後半にはアメリカとのあいだに貿易をめぐる対立がおこりました。また、⑦生産を拡大することが優先されていたために、豊かになっていく反面で、さまざまな問題もおこりました。今の中国でも、当時の日本と同じような問題がおこっているようです。中国は大きな国なので、それらの問題の解決は日本以上にむずかしいことになるのではないのでしょうか。

日本と中国のあいだの貿易は年々拡大し、⑧日中の経済的な結びつきは深まっています。ところが、おたがいの国民どうしの理解はまだ十分とはいえません。これからよい関係をつくっていくためには、相手の国の歴史、そしてつきあいの歴史をおたがいがよく知ることがとても大切なのです。

問7 下線部⑥について、日本からの輸出が多くて問題になったものを選びなさい。

ア せいの製品 イ 小麦粉 ウ 自動車 エ パソコン

問8 下線部⑦について、どのような問題がおこったかを説明しなさい。

問9 下線部⑧について、右に示した統計や、みなさんのふだんの生活のなかで見たり聞いたりしていることを考えあわせ、最近の日本と中国のあいだの経済関係をのべた文として正しいものを、ア～オから2つ選びなさい。

ア わたしたちが食べている野菜は、半分以上が中国から輸入されている。

イ 日本企業が中国に進出したため、中国に働きに行く日本人が増え、日本では労働者が不足するようになった。

ウ 日本の自動車会社が中国に進出して生産を増やしたため、自動車産業の盛んな中国工業地帯がおとろえた。

エ 中国から安い生活用品がたくさん輸入され、「100円ショップ」などで売られるようになった。

オ 中国に進出して製品をつくる日本企業がが増えたため、電気製品やコンピュータなどの輸入が増えている。

●中国からの輸入額の割合が高いおもな品目（2005年）

衣類	81.0%（2位はイタリア 4.9%、3位はベトナム 2.7%）
野菜	51.8%（2位はアメリカ 16.5%、3位は韓国 6.7%）
事務用機器*	51.3%（2位はアメリカ 9.7%、3位は台湾 6.2%）

* コンピュータ、コンピュータ部品を含む。

『日本国勢図会 2006 / 2007』

●日本に住んでいる中国国籍の人（人）

1995年	2000年	2005年
222991	335575	519561

（法務省大臣官房司法法制部司法法制課『出入国管理統計年報』）

●日本企業が中国につくっている会社の数（社）

1995年	2000年	2005年
1502	2855	4404

（東洋経済新報社『海外進出企業総覧』）

問10 これまでの問題でみてきたように、日本と中国は長い歴史の中でいろいろなつきあいかたをしてきました。そのつきあいかたのうつりかわりをまとめなさい。

1 2

3 4

5 6

7 8

問1

※

※

問2

問3

※

問4

問5

※

問6

※

問7

問8

問9

※

問10

※

受験番号

氏名

評価

※